

平成28年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT28179 プログラム名 病気から体をまもる研究を丸ごと体験してみよう！！



開催日：平成28年8月23日(火)

実施機関：公立大学法人 名古屋市立大学

(実施場所) (桜山キャンパス)

実施代表者：酒々井 眞澄

(所属・職名) (名古屋市立大学大学院医学研究科・教授)

受講生：高校生 25名

関連URL:

【実施内容】

生徒は実際の講義の雰囲気を感じながら大教室で「KAKENHI」の説明とミニ講義を聴講しました。どのように研究は進められるのかを聞くことでこれから取り組む実験への意欲と興味を引き出すのがねらいです。講義はなるべく簡潔にして指導スタッフと一緒に実験する時間を長くする工夫がなされています。実験中、全ての生徒(25名)が自分の手を動かして実験できるように研究室を3か所とし十分なスタッフ数を配置しました。実験は教員が獲得した科研費により実際に行われている研究を題材にしており、仮説→実験→データ処理→結論→成果発表の一連の研究過程をじっくり体験してもらうことで研究の醍醐味や生徒の積極的な参加を引き出すようにしてあります。昼食は複数のテーブルを配置して生徒と指導スタッフが隣り合わせで話しやすい雰囲気にしてあります。さらに、生徒が退屈しないように大学院生によるランチオンセミナー(自らの研究生活についての話)を設定しました。昼食と同じ会場で研究室ごとに成果発表をしてもらいました。司会の教員は生徒が話しやすいように気を配り、生徒の取り組みに対してサポートティブに質疑応答が進められました。

【当日のスケジュール、実施の様子】

9:00～9:20 受付

9:20～9:40 開講式

- ・浅井医学研究科長挨拶
- ・酒々井教授からオリエンテーション
- ・科研費の説明

9:40～10:00 ミニ講義「くすりの作り方」(酒々井教授)



10:00～11:30 各研究室に分かれて実験(適宜研究室ごとにクッキータイム)



11:30～12:30 ランチョンセミナーを聞きながら昼食と歓談



12:30～15:00 各研究室に分かれて実験再開・データ処理・発表準備



15:00～15:45 実験結果発表と総合討論



16:45～16:15 修了式(浅井医学研究科長より郡健二郎学長名で未来博士号の授与)



16:15 アンケート記入、参加者全員で記念撮影、解散

【まとめ】

これまでの経験もありプログラムはスムーズに進行し無事に終了することができました。科学技術がどのように社会に役立っているか、科学技術を使って研究者は何を解明したのかを生徒一緒に考え、体験することができました。このような体験型学習のプログラムを充実させることにより、科学に興味を持ってもらい、考える力を伸ばしてあげられるのではないかと思います。それが科学の発展につながるのではないかと思います。参加者と関係者の皆様、ご協力どうもありがとうございました。

### 【事務局との協力体制】

- ・事務局学術課が、日本学術振興会への申請事務、日本学術振興会との連絡調整、提出書類の確認・修正、傷害保険契約等を行いました。また、広報 PR、申込受付事務及び当日の運営補助を行いました。
- ・医学部事務室において、委託費の管理と経費精算事務を行いました。
- ・事前に指導スタッフと事務局学術課担当者が実施打ち合わせを 3 回行い、スムーズな実施に努めました。

### 【広報活動】

- ・事務局学術課において、PR 用ポスター・チラシを作成し、区役所等市民来所施設へ配布・掲出しました。
- ・事務局学術課が、大学広報誌、HP、名古屋市の広報誌「広報なごや」を活用し募集に努めました。
- ・実施代表者と学術課職員が近隣の高校を訪問し、本事業について PR しました。
- ・実施代表者と事務局学術課が、名古屋市教育委員会へ事業趣旨を説明し、市立高校校長会の承諾を得て、市立高校へポスター・チラシの配布・掲出をお願いしました。
- ・事務局企画広報課がプレスリリースを通して「中日新聞」「毎日新聞」への記事掲載に協力しました。

### 【安全配慮】

- ・指導スタッフと生徒には傷害保険へ加入させ事故に備えました。(該当事故なし)
- ・実施代表者は実施マニュアルと事故対応マニュアルを作成し、指導スタッフと事務局学術課担当者が実施打ち合わせを 3 回行い、事故防止に努め、事故発生時の対応について確認しました。
- ・保護者の同意(送迎は保護者が責任を持つ)が確約されたことを参加条件としました。
- ・実験の前に指導スタッフは生徒に注意事項を説明し事故防止に努めました。
- ・実験着(白衣)、手袋、安全めがね等を各研究室で準備し必要に応じて使用しました。
- ・実験の際は必ず指導スタッフの指示・観察下のもとで行いました。
- ・熱中症予防のため参加者に水分補給を推奨し、実施場所の適切な環境(温度、湿度)を維持しました。
- ・人数確認を徹底し、体調不良等に備え事務局隣の保健室を終日確保しました。
- ・貴重品の管理を徹底しました。

### 【今後の発展性、課題】

- ・本プログラムを継続することで研究成果の社会還元を行い、若者の興味を引き出すことで科学の発展に寄与することができる。
- ・継続的な財源の確保、大学全体での認知と実施協力体制の維持が肝要である。

### 【実施分担者】

飛田 秀樹	医学研究科・教授
近藤 豊	医学研究科・教授
二口 充	医学研究科・准教授
深町 勝巳	医学研究科・講師

【実施協力者】     \_\_\_ 10 名

### 【事務担当者】

小林 桂太     事務局 学術課 社会貢献係